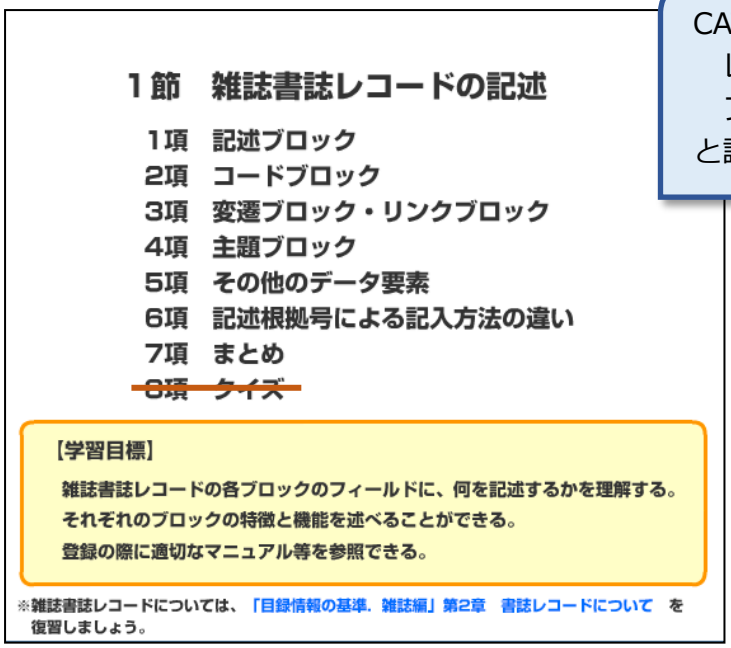
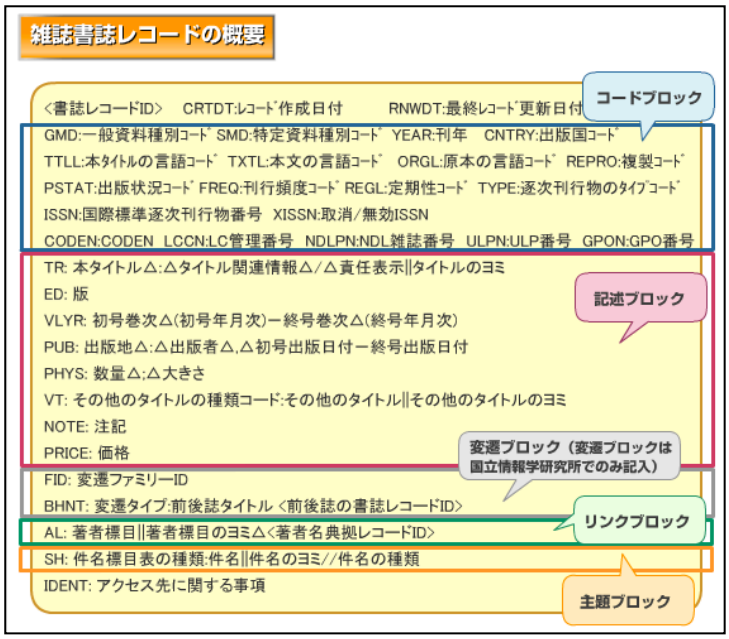
1節　雑誌書誌レコードの記述



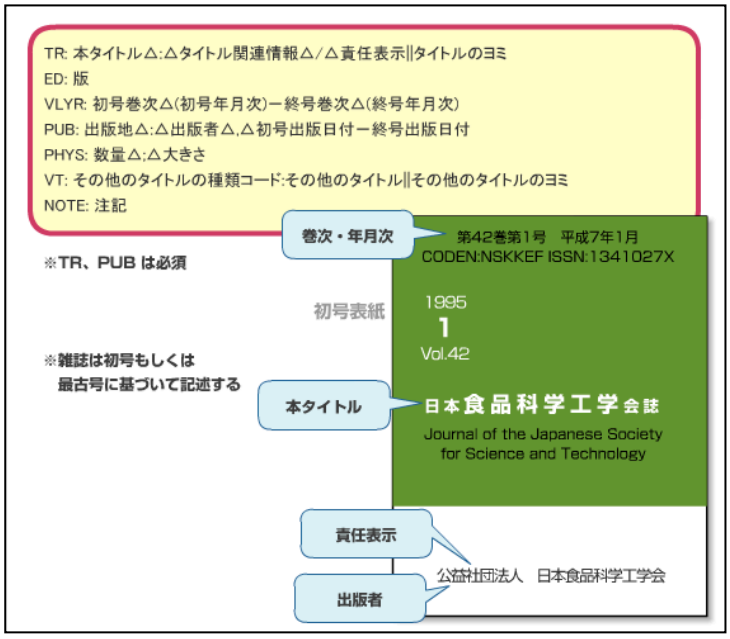
CAT2020 運用開始以降は、
　レコード ⇒ データ
　ファイル ⇒ データセット
と読み替えてください。

1項　記述ブロック

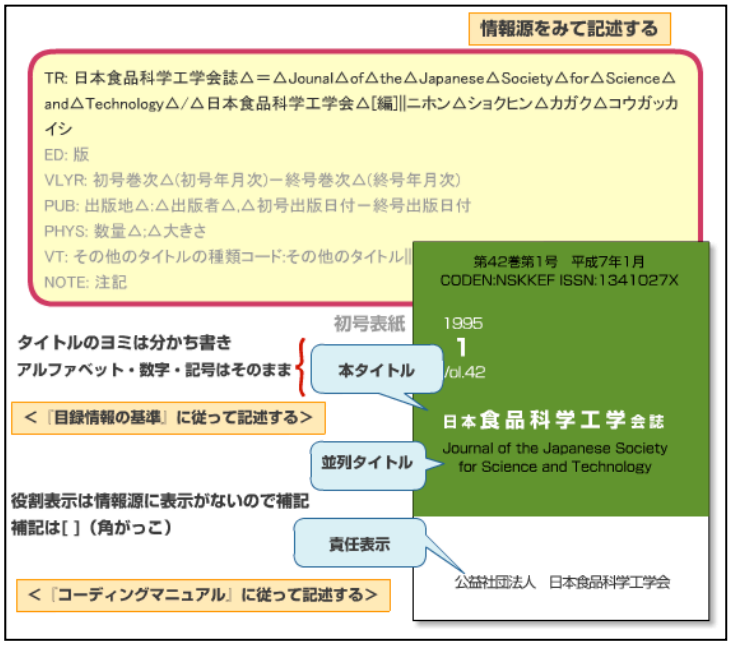


雑誌書誌レコードの概要について説明します。
雑誌書誌レコードは、5 ブロックからなります。各ブロックは、複数のフィールドから構成されています。
そのため、「書誌レコードを作成する」とは、登録対象資料の情報を、フィールドに記述していくことでもあります。
ここでは、書誌レコードの新規作成を例に、情報源の見方及びレコードの記述方法について説明を行います。

1 節　雑誌書誌レコードの記述

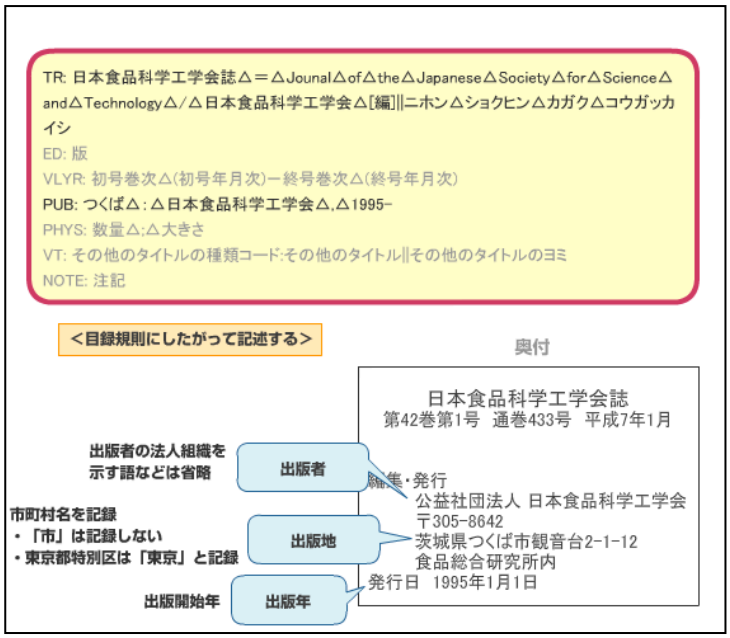


記述ブロックです。
タイトル、責任表示、出版事項など、書誌レコードのメインとなる情報を記述します。
このうち、タイトルに関する事項 TR と、出版事項 PUB は、必須フィールドです。注意しましょう。
雑誌は初号もしくは所蔵する最も古い号（最古号）に基づいて記述します。
まずは手元に初号があった場合の説明をします。
それでは、資料を見ていきましょう。
登録資料の初号の表紙です。和雑誌では最も重要な情報源です。この表紙からは、本タイトル、責任表示、初号の巻次・年月次、出版者の情報がわかります。



表紙を見ながら、書誌レコードに記述していきましょう。
TR に、本タイトル、責任表示等を、ルールに従って記述します。
本タイトルと同一情報源上の別の言語による同じ意味のタイトルは並列タイトルですので、本タイトルの後ろに区切り記号「△=△」をはさんで記述します。
責任表示の前は区切り記号として「△/△」を使います。
タイトルのヨミは、分かち書きします。
ヨミや分かち書きのルールは『目録情報の基準』にあります。
その他、具体的記述方法は適宜『コーディングマニュアル』を参照しましょう。

1 節　雑誌書誌レコードの記述



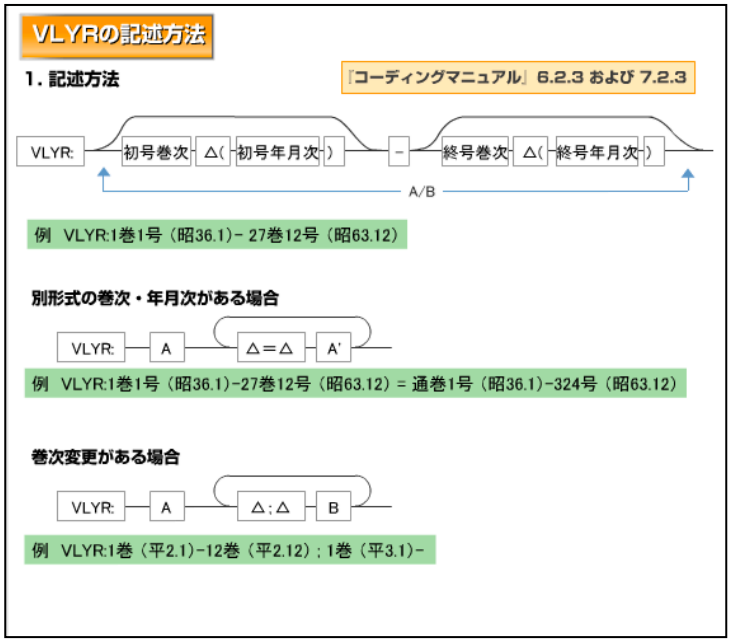
出版事項が奥付から確認できたら、次にそれを『コーディングマニュアル』に従って PUB に記述します。順に見ていきましょう。

まずは、出版地です。市町村名を記述しますので「つくば」になります。

次に、出版者です。「公益社団法人日本食品科学工学会」と表示されていますが、法人組織を示す語等は省略するため「日本食品科学工学会」となります。

そして、出版年は刊行開始年と終了年とを「－（ハイフン）」で結んで記述します。刊行が継続中の資料ですので、初号の出版年「1995」と「-」とを記述します。

このようにして採用した記述要素を、一つ一つ該当フィールドに記述します。

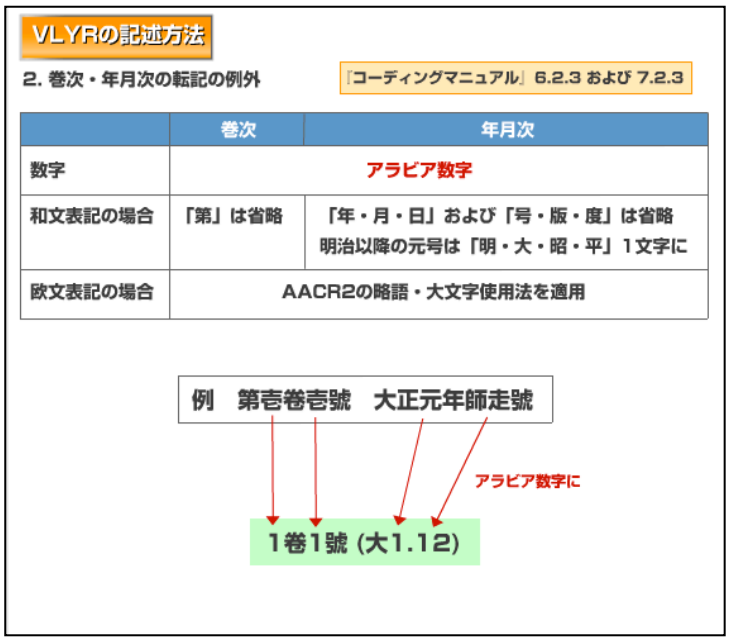


巻次・年月次 VLYR は、雑誌特有の重要なフィールドです。記入方法のポイントを説明します。

VLYR とは、そのタイトルに関する刊行の範囲を、巻次と年月次で記録したものです。初号と終号の巻次・年月次を「－（ハイフン）」で繋ぎ記述します。巻次と年月次は常に組み合せて記述します。巻次・年月次の部分は、巻次の後「△（スペース）」１つをおいて、年月次は「()（丸カッコ）」で囲んで記述します。

また、情報源上に別形式の巻次・年月次がある場合や、途中で巻号が１に戻る、極端な飛躍があるといった巻次変更の場合などには、それぞれの規定の区切り記号で記述します。

1 節　雑誌書誌レコードの記述



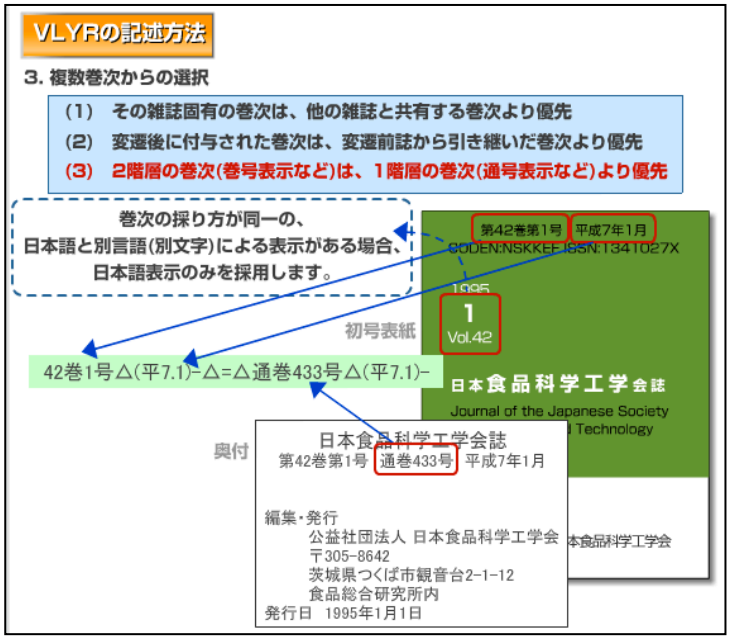
巻次・年月次とは、その雑誌の順序付けに関する表示のことです。基本的には、番号が巻次で、暦に関連する記号が年月次です。

原則として目録対象資料に表示されている通りに記録しますが、いくつか例外があります。

まず、巻次も年月次も、数字はアラビア数字で記録します。

また、和文表記の場合、巻次の「第」は省略します。年月次では「年・月・日」および「号・版・度」を省略し、明治以降の元号の場合は、頭文字 1 文字に短縮します。欧文表記の場合は、規定の略語と大文字使用法とを使用します。

詳しくは『コーディングマニュアル』を参照しましょう。



和雑誌の具体例で示します。この雑誌には第 42 巻第 1 号という 2 階層の巻次と、通巻 433 号という 1 階層の表示があります。また、表紙には Vol.42 という表示もあります。

このように複数の形式の巻次表示がある場合、表のような優先順位が定められています。詳しくは『コーディングマニュアル』を参照しましょう。

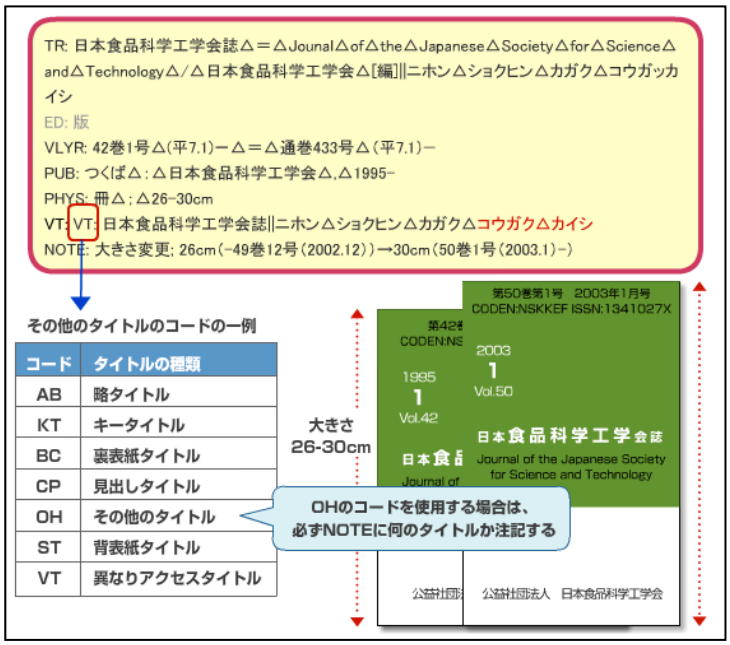
このケースでは、(3) に該当しますので、第 42 巻第 1 号を巻次として採用し、通号は別形式の表示と捉えて、「△=△」の後ろに記述します。

そして、第 42 巻第 1 号は 42 巻 1 号、平成 7 年 1 月は平 7.1 となりますので、VLYR はこのようになります。

なお、「Vol.42　1」は、この場合には、採用しません。

1 節　雑誌書誌レコードの記述

2 項　コードブロック



他にも記述ブロックには、数量や大きさに関する情報や、その他のタイトルや注記などを記録します。

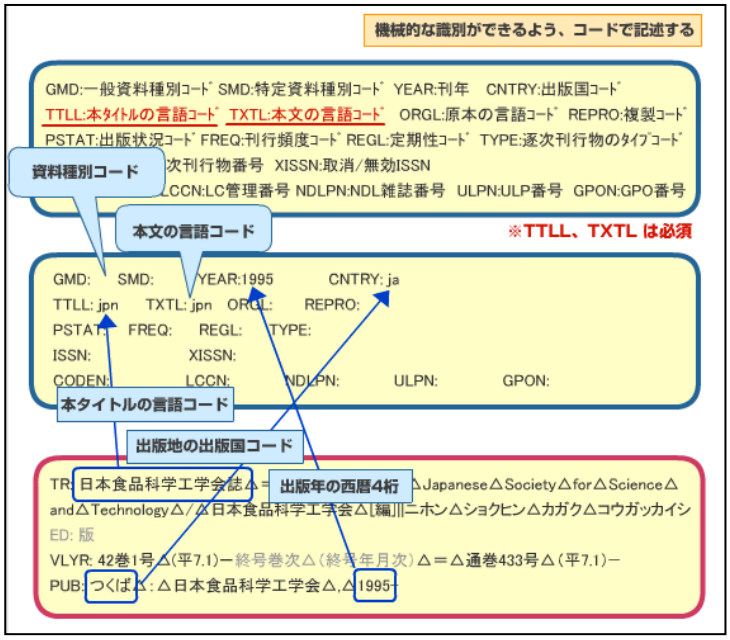
刊行継続中の雑誌の数量は、単位の「冊」のみで構いません。大きさを測り、もし巻号により大きさが異なる場合は、その範囲をハイフンで結んで記述します。

TR に記述した内容とは異なるタイトルやヨミの形は、検索に便利なため、VT に記録するようにしましょう。この例の場合では、別のヨミの分かち形を入れています。

VT にはその他のタイトルのコードも同時に記録します。

注記は、必要に応じて NOTE に記録します。刊行途中での責任表示や出版の変更などは、雑誌書誌レコードではその雑誌全体を知る上で重要な要素です。

以上が、記述ブロックの主な内容です。



次に、コードブロックです。

コードブロックでは、機械的な識別ができるよう、内容に対応するコードで記述する形をとっています。

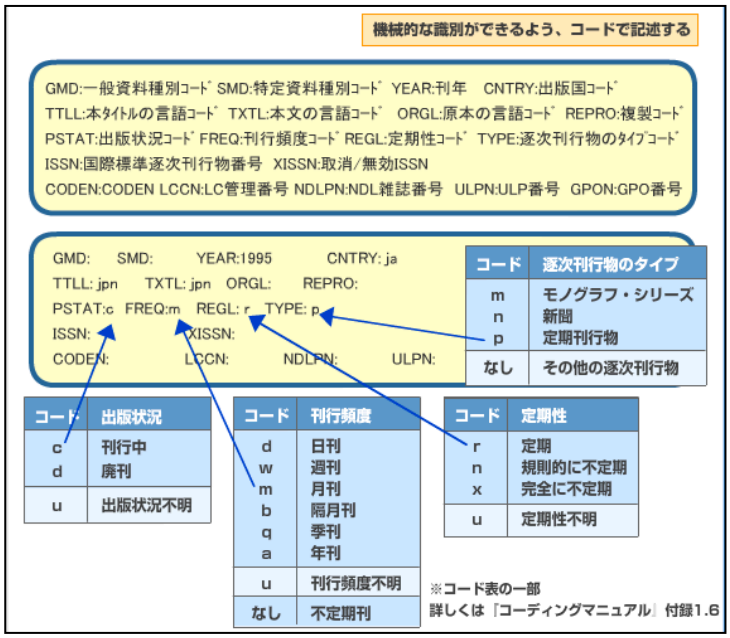
主なフィールドについて見ていきましょう。資料種別 GMD と SMD は、紙媒体の雑誌の場合は記入しません。

刊年 YEAR は、PUB の出版年から初号出版年と終号出版年の西暦年 4 桁の数字を、出版国コード CNTRY は出版地の国のコードを入力します。本タイトルの言語コード TTLL は、TR がもとになります。

本文の言語コード TXTL は、資料全体から判断します。TTLL と TXTL は記述が必須の項目です。

このように、コードブロックのフィールドには、記述ブロック内のフィールドと対応するものがいくつかあります。

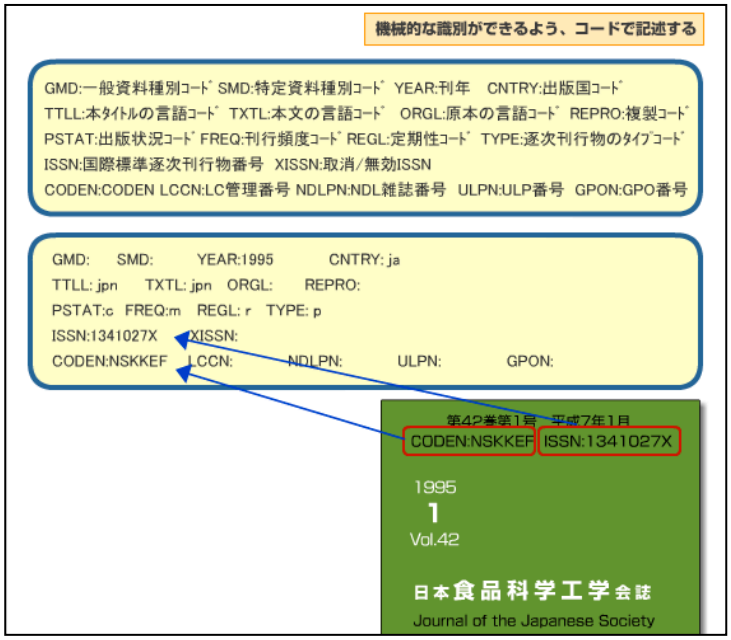
1 節　雑誌書誌レコードの記述



雑誌書誌レコードでは、雑誌の出版等に関する事項をコード化して入力します。出版状況 PSTAT、刊行頻度 FREQ、定期性 REGL、逐次刊行物のタイプ TYPE の 4 種類のコードです。

コードは『コーディングマニュアル』の付録 1.6 にあるコード表を参照します。

この例では、PSTAT は刊行中ですので「c」、FREQ は月刊なので「m」、REGL は定期の「r」、TYPE は定期刊行物の「p」を記述します。



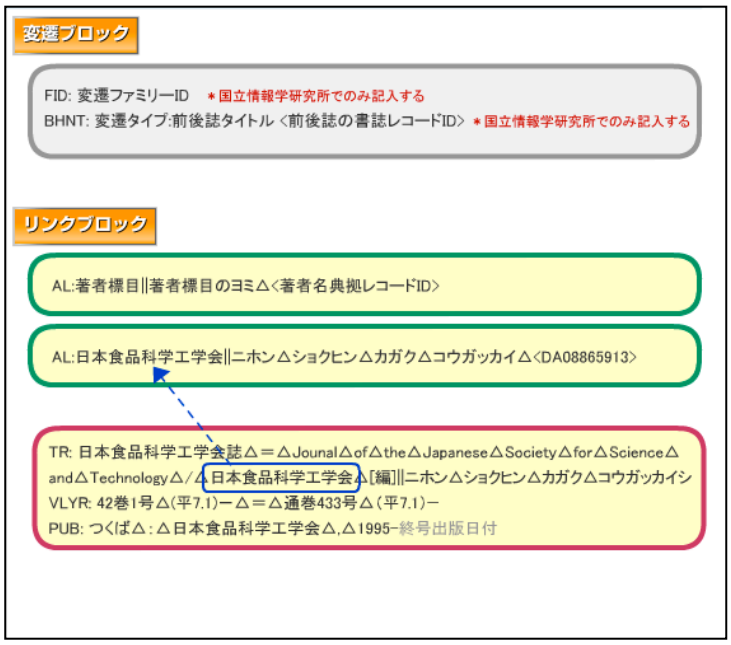
ISSN や CODEN は、その雑誌に付与された国際的な識別コードに関するフィールドです。

ISSN や CORDEN の情報源は「どこからでもよい」ことになっており、また初号ではなくても入力できる項目ですので、できる限り入力するようにしましょう。

以上が、コードブロックの主な内容です。

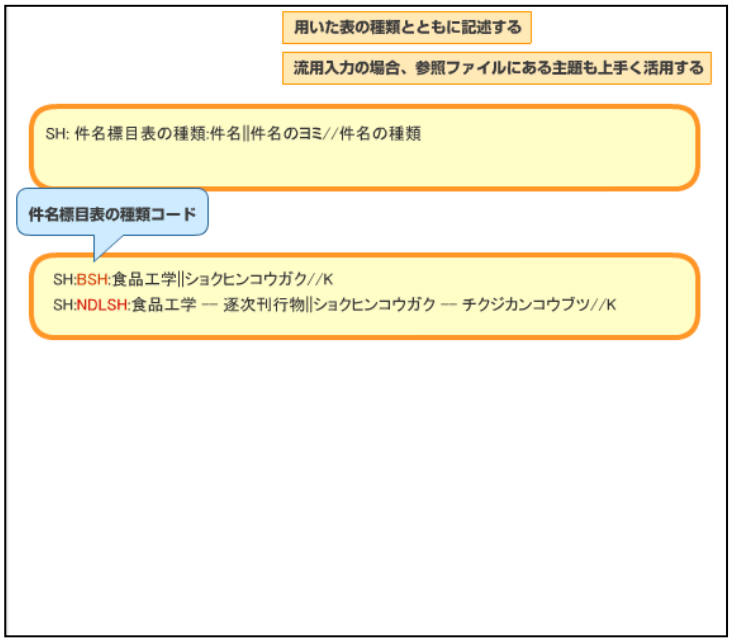
1 節　雑誌書誌レコードの記述

3 項　変遷ブロック・リンクブロック



次に変遷ブロックとリンクブロックです。
変遷ブロックは、タイトル変遷情報を表示するための部分です。
変遷ファミリーID と変遷前後誌のリンク形成は、参加館の報告に基づき国立情報学研究所が行います。
リンクブロックは、その名の通り、書誌レコードと他のレコードとの間のリンク関係を形成・記録する部分です。
著者名リンク AL には、著者名リンクを形成すると、リンク先の著者名典拠レコードから、著者標目、即ち見出し語としての形と典拠レコード ID とがセットされます。
詳しくは、「2 節 リンク形成」で説明します。

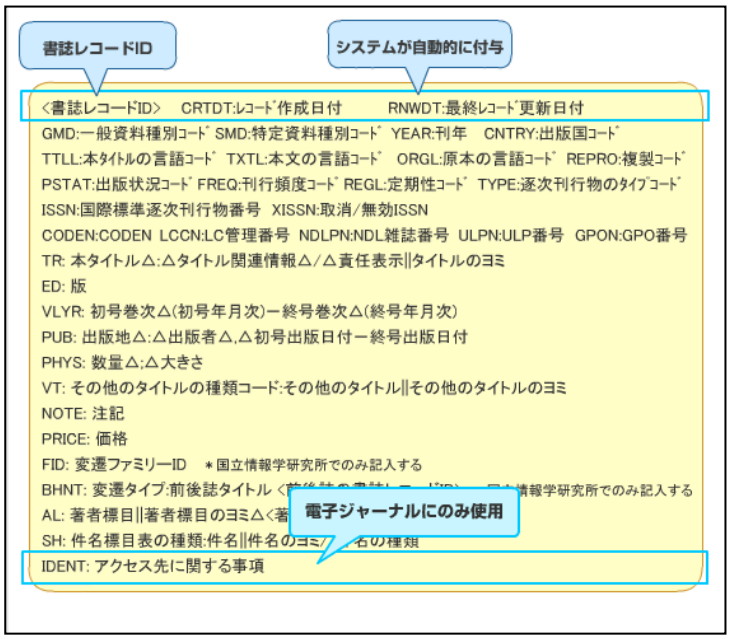
4 項　主題ブロック



次に主題ブロックです。主題に関する情報を記録する部分です。
雑誌書誌レコードの主題ブロックは件名 SH のみで、分類は入力しません。
ここでは、件名そのものだけではなく、用いた件名標目表の種類と共に記述します。
参照ファイルからの流用入力の場合には、参照ファイルにあるものを上手く活用してください。

1 節　雑誌書誌レコードの記述

5 項　その他のデータ要素



その他のデータ要素について説明します。

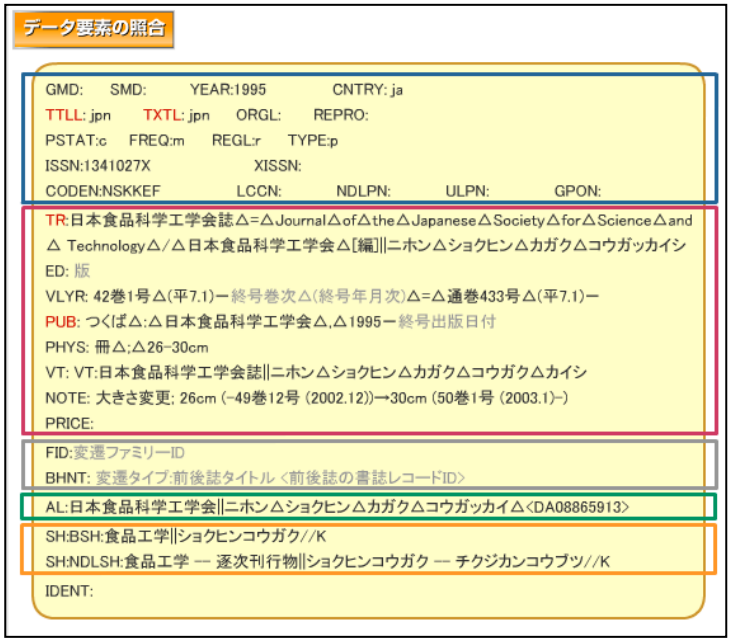
書誌レコードにはこれまで説明したフィールド以外に、書誌レコード ID、レコードの作成・更新に関する日付の情報があります。

これらはシステムが自動的に付与します。

また、IDENT フィールドは、アクセス先に関する事項を記録します。資料に関する URL を記録するフィールドです。

現在のところ、電子ジャーナルの URL のみを記録します。

電子ジャーナル以外では使用しないということを覚えておきましょう。



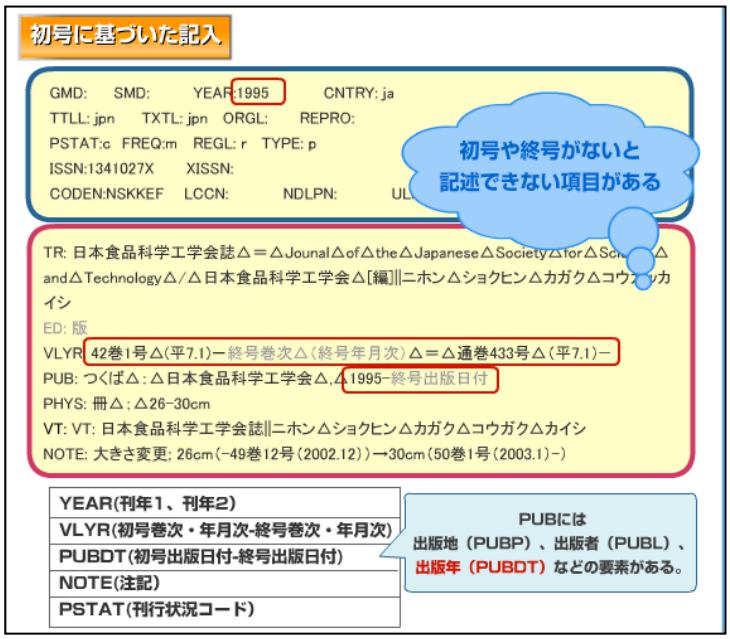
入力が終ったら、最後にもう一度、記述内容と情報源を照合し、間違いがないかチェックしましょう。

4 つの必須フィールドは、きちんと入力されているでしょうか？記述ブロックとその他のブロックの整合性はとれているでしょうか。

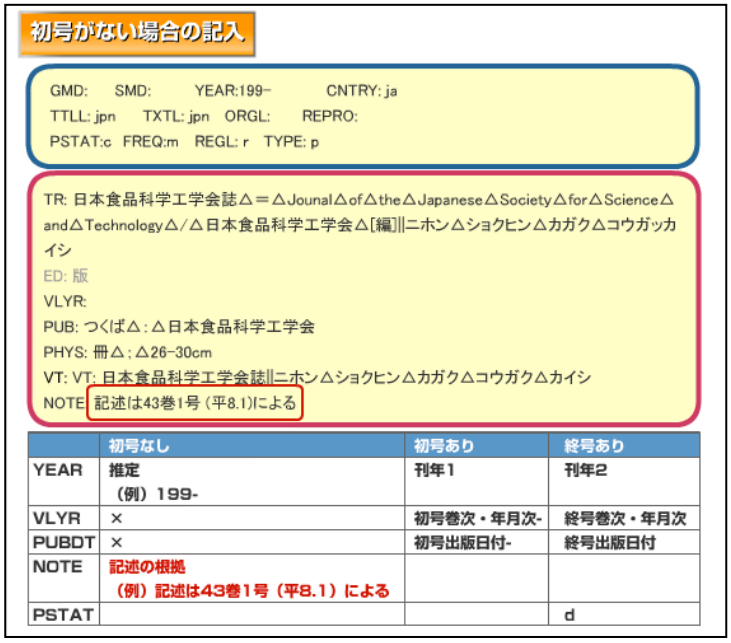
すべてのフィールドに常に入力する項目があるとは限りません。

この例では、まだ継続刊行中の雑誌であるため、終号の情報は記録できません。また、版の情報 ED や、複製資料の場合にのみ入力する複製コード REPRO も入力しません。

6 項　記述根拠号による記入方法の違い



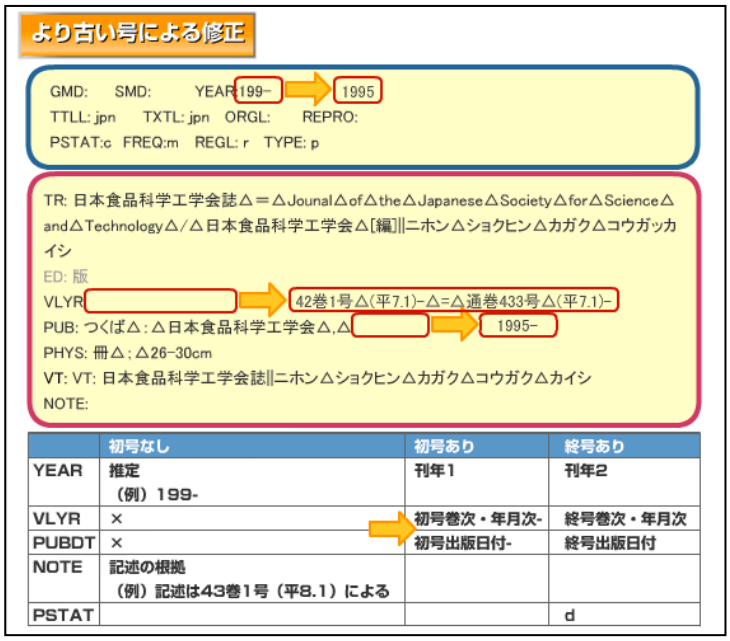
ここまでの説明は、初号に基づいた記入例でした。
巻次・年月次 VLYR や刊年 YEAR、PUB の要素の中でも出版年を記入する PUBDT などは、その雑誌の初号から終号までの情報を範囲で示しますので、初号がない場合、終号もある場合では、記入できる項目が異なります。
初号がなく所蔵最古号に基づいて記述した書誌レコードの違いをみていきましょう。



	初号なし	初号あり	終号あり
YEAR	推定 （例）199-	刊年1	刊年2
VLYR	×	初号巻次・年月次-	終号巻次・年月次
PUBDT	×	初号出版日付-	終号出版日付
NOTE	記述の根拠 （例）記述は43巻1号（平8.1）による		
PSTAT			d

雑誌書誌レコードは、「初号主義」を採用していますので、初号以外の号に基づいて記述した時は、「記述は何号（何年）による」という記述根拠号についての注記をしなければなりません。
また、初号巻次・年月次、初号出版日付も初号がないと記述することはできません。ただ、刊年 1 には、「−（ハイフン)」を使って推定の西暦年 4 桁を入力します。この例では、「推定 1990 年代」を表します。
一方、初号の有無に関わらず終号がある場合には、終号巻次・年月次、終号出版日付、刊年 2 を記述します。あわせて、刊行状況コード PSTAT は廃刊を示す「d」にします。

1 節　雑誌書誌レコードの記述



既存の書誌レコードが初号以外の号に基づいて作成されていて、手元に、より古い号があれば、書誌レコードを修正します。
また、初号があれば、初号巻次・年月次、初号出版日付、刊年 1 を初号に基づいて入力し、記述の根拠の注記を削除するという修正作業を行います。
このように、雑誌の書誌レコードは、さまざまなケースで修正が必要になります。
より新しい号で出版者や責任表示が変わった場合は、TR や PUB を修正するのではなく、NOTE に注記します。

7 項　まとめ

雑誌書誌レコードの登録について見てきました。本節の最後に、『コーディングマニュアル』について紹介します。
目次を見ると、『コーディングマニュアル』の内容が、ブロック毎に構成されていることが分かります。
第 6 章が和雑誌書誌レコード、第 7 章が洋雑誌書誌レコードについてです。
ここで取りあげたのは書誌登録の一例です。実際の業務においては、さまざまなケースがありますので、『コーディングマニュアル』をこまめに参照するようにしましょう。

YEAR	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
刊年1、刊年2	必須2	可変長		1
刊年1	（必須1）	（固定長）	（4バイト）	
刊年2	（必須2）	（固定長）	（4バイト）	

たとえば和雑誌書誌レコードの 6.1.5 YEAR には、図のような説明が載っています。

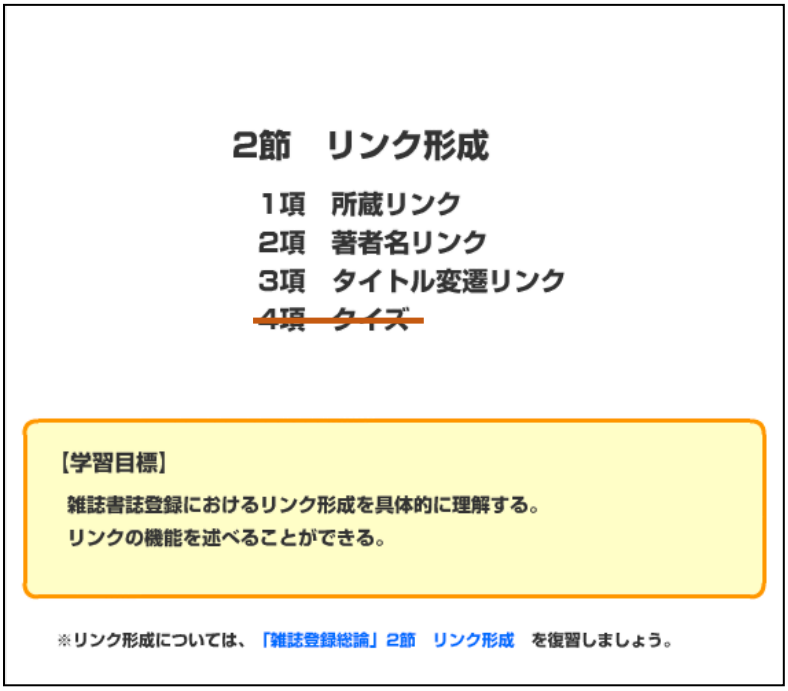
入力レベルは要注意です。フィールド全体と、記述要素とで入力レベルが設定されています。

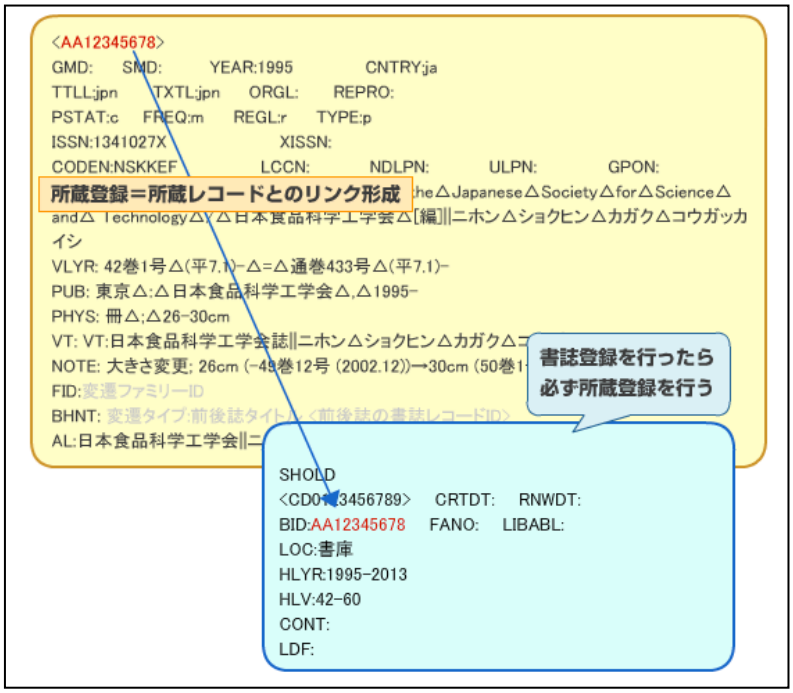
この例では、YEAR フィールド自体は「必須 2」ですが、入力する場合には、刊年 1 は「必須 1（必ず入力する）」であることを表しています。

また、繰り返し数「1」とは、そのフィールドは 1 回のみで、繰り返し不可であるとの意味です。

その他、『コーディングマニュアル』には、フィールドの記述文法、データ要素の情報源や、データの記入例などが示されています。

2 節　リンク形成



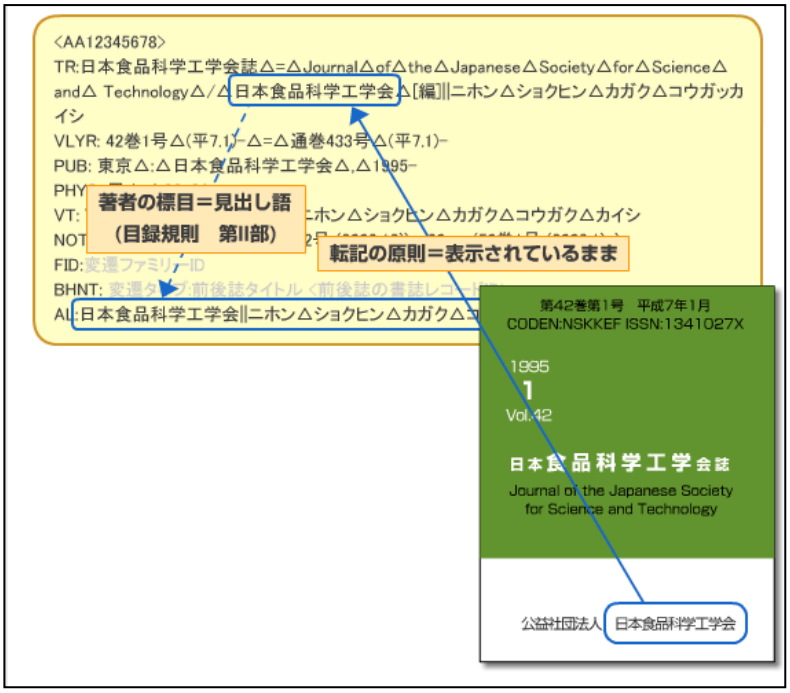


まずは「所蔵リンク」です。通常「所蔵登録」と呼ばれています。所蔵登録を行うと、所蔵レコードの BID に自動的に書誌レコード ID が転記されます。これが所蔵リンク形成です。

書誌レコードを新たに作成した際は、必ず所蔵登録を行います。雑誌の資料管理では、登録した所蔵レコードの内容を、常に最新の状態に更新することも大切です。

2 節　リンク形成

2 項　著者名リンク

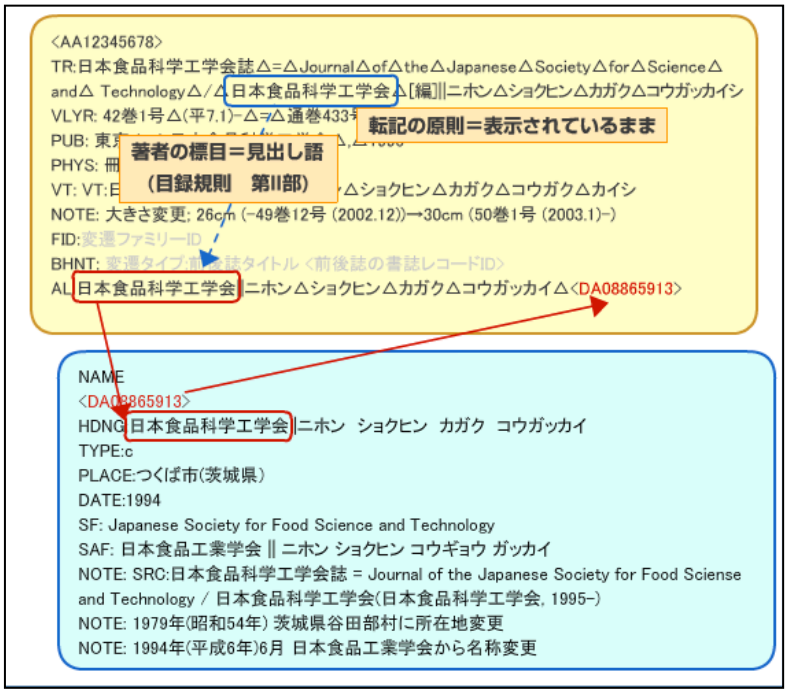


次に「著者名リンク」を説明します。

TR の責任表示には、情報源に表示されているとおりに編者等の団体名を記述し、AL にはその標目形とヨミを記述します。

TR にある責任表示の情報は、転記の原則により情報源上での表示に影響されますので、著者名リンクを形成することで、同一著者等の書誌レコードの管理が可能になります。

また、刊行途中で責任表示が変わった場合等も、NOTE にそのことを注記するだけでは検索できませんので、著者名リンク形成も忘れずに行いましょう。



AL に標目形を記録した後に、リンク形成を行います。具体的には、

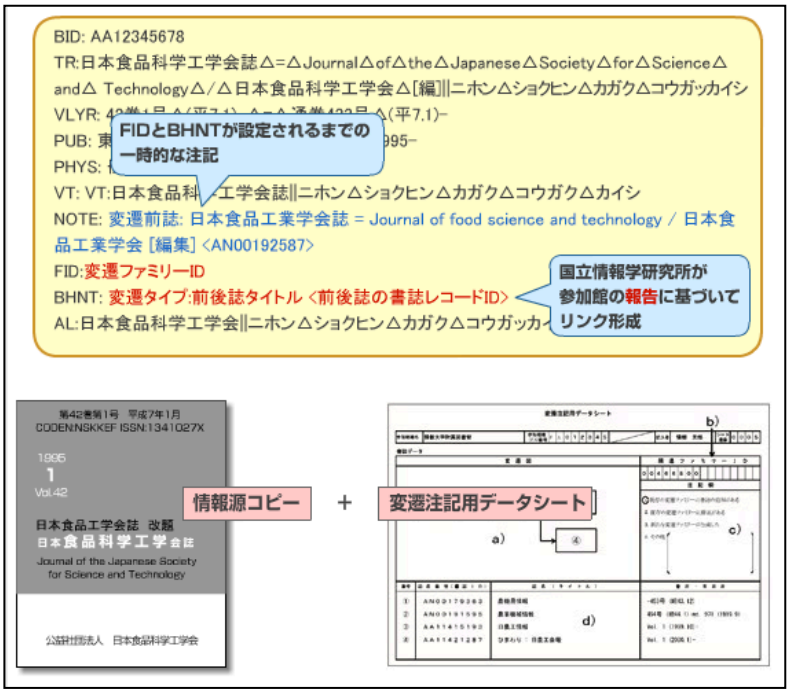
AL の標目形をもとに該当する著者名典拠レコードを検索し、同定できたレコードに対してリンクを確定する、という操作です。

その結果、書誌レコードの AL には、著者名典拠レコードのレコード ID と統一標目形（見出し語）とヨミが転記されます。

著者名典拠レコードも共有レコードです。なければ作成しますが、書誌レコードと同じく、重複を作成しないよう、充分に検索してから作成します。

2 節　リンク形成

3 項　タイトル変遷リンク



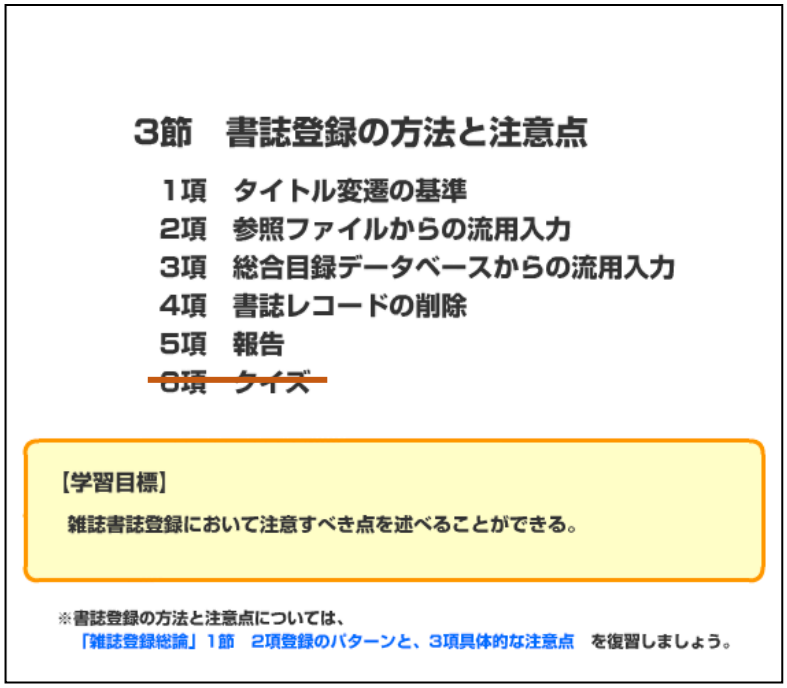
最後に「タイトル変遷リンク」です。

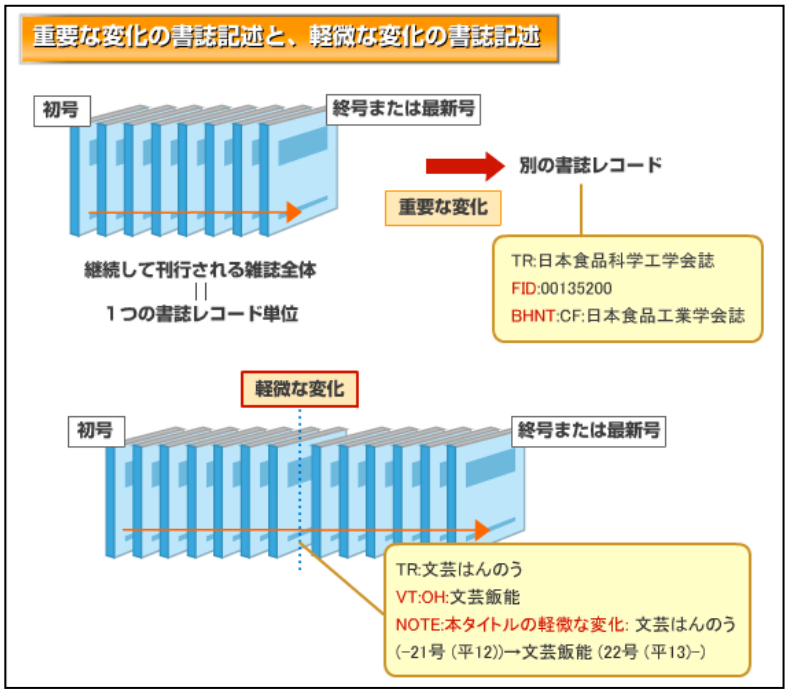
タイトル変遷リンクとは、雑誌書誌レコードとタイトル変遷レコードとの間のリンクのことです。FID と BHNT に必要な情報が記録されます。

これは参加館からの報告を元に、国立情報学研究所が行います。

NOTE に変遷関係を注記した上で、「変遷注記用データシート」と情報源のコピーを国立情報学研究所にお送りください。この注記はリンク形成作業が行われるまでの一時的なもので、タイトル変遷リンク作成時に削除されます。

変遷報告がないと、リンク形成がされないままになってしまいますので、変遷の事実を発見した場合は、必ず報告をお願いします。





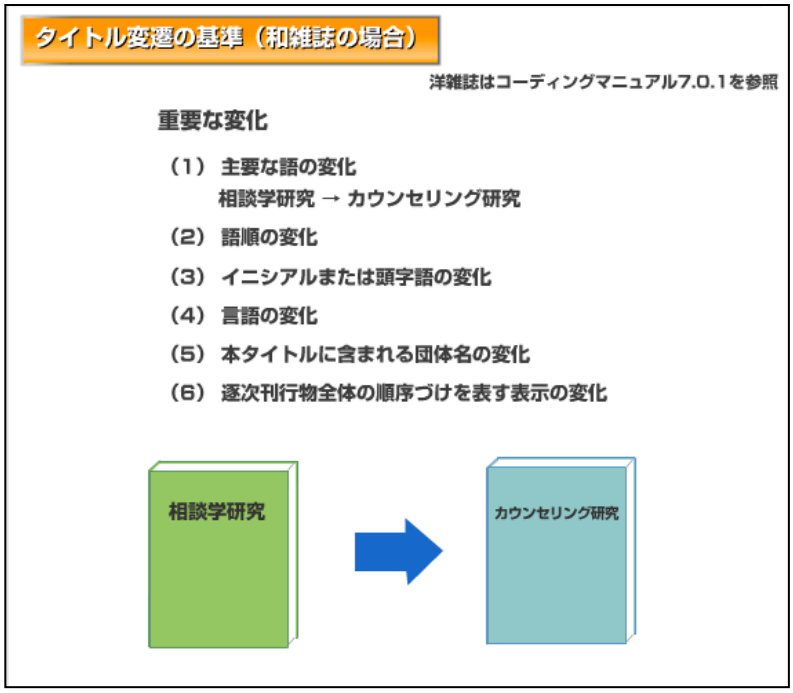
1 項　タイトル変遷の基準

ここでは具体的な書誌記述の違いについて説明します。

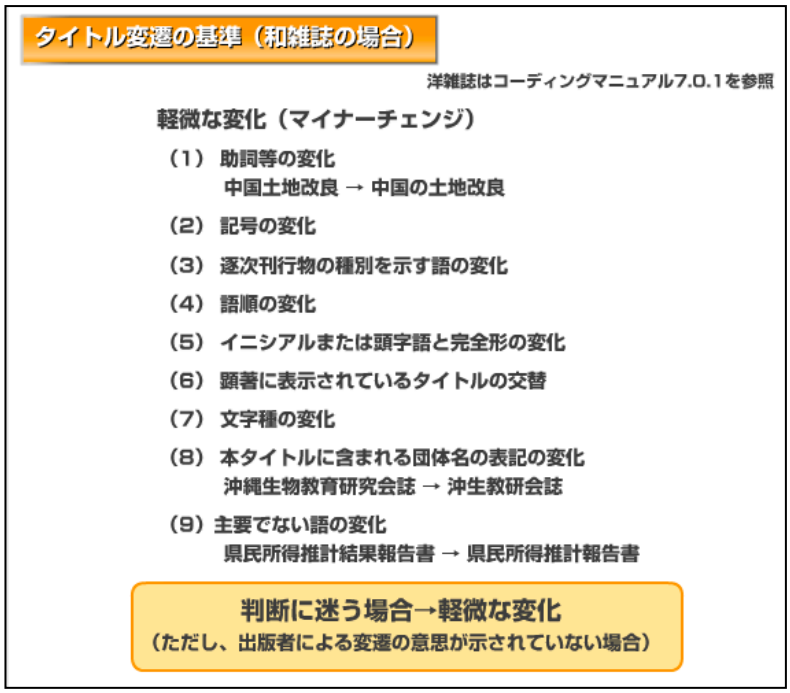
本タイトルに重要な変化が起った場合は、新たに書誌レコードを作成します。前後誌の関連は BHNT に記録されるので、前後誌からも検索が可能です。

しかし、軽微な変化に該当する場合は、同一書誌レコードとして扱います。その際は、NOTE に、「本タイトルの軽微な変化: 」という定型句に続けて、変化後のタイトルを巻次・年月次とともに記述します。

また、必ず VT にその他のタイトルのコード「OH」と共に、そのタイトルを記述し、変化後のタイトルからも検索できるようにします。



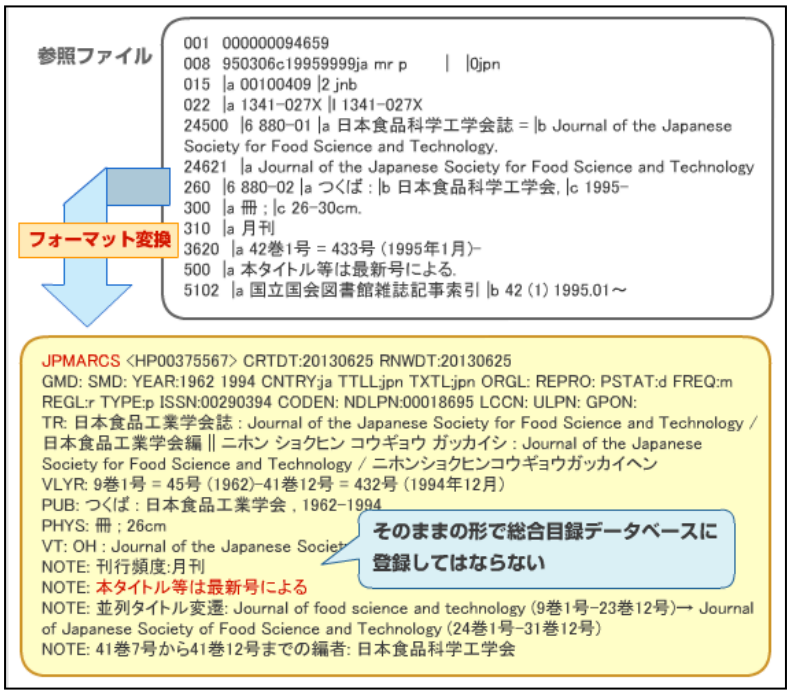
では、どのような場合に軽微な変化と捉えるのでしょう。
2006 年 4 月から、ISBD（国際標準書誌記述）の改訂に準じて、NACSIS-CAT でも軽微な変化という考え方を取り入れました。
ここでは和雑誌について概要を説明します。洋雑誌は『コーディングマニュアル』の 7.0.1 を参照してください。
まず、いくつかある重要な変化の条件に該当するかを考えます。
例えば「相談学研究」が「カウンセリング研究」に変わった場合、主要な語が別の語に変わりましたので、別のタイトルの雑誌に改題したと考えてよいでしょう。



重要な変化の条件に該当しない場合には、軽微な変化の条件に照らし合わせて検討します。これらに該当すれば、軽微な変化です。
判断に迷う場合は、軽微な変化とします。ただし、出版者による変遷の意思が示されている場合はその限りではありません。
また、軽微な変化は、原則として遡及的には適用されませんので、それ以前に作成された書誌レコードには、新たに調整が必要になった場合を除いて、従来の判断基準をもとにタイトル変遷扱いにしているものがあります。

3 節　書誌登録の方法と注意点

2 項　参照ファイルからの流用入力



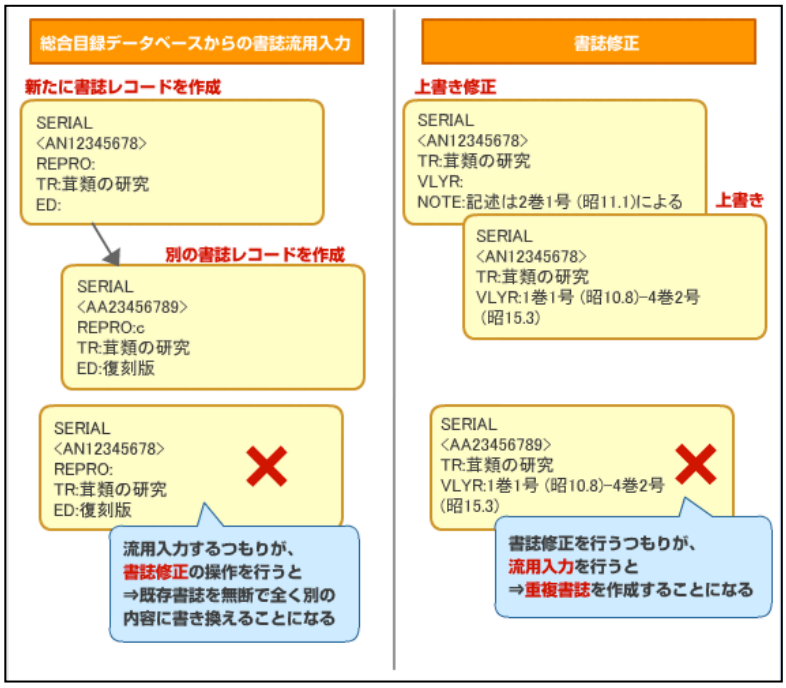
次に、流用入力について説明します。書誌登録の方法には、新規入力以外にも、参照ファイルにある同一、または類似のレコードを元にした流用入力があります。

参照ファイルとは、国内外の書誌作成機関の書誌データを、NACSIS-CAT のフォーマットにあわせて変換したものです。

この参照ファイルを用いると、簡単な操作で書誌レコードの新規作成が可能ですが、必ず現物資料を元に、すべての記述について確認し、必要な修正・削除等を行った上で書誌登録をしてください。

そのままの形で NACSIS-CAT へ登録することは、間違いのもとですので、注意してください。

3 項　総合目録データベースからの流用入力



次に、総合目録データベースからの書誌流用入力と、書誌修正の違いについて説明します。

流用入力とは、既存のレコードをもとに、新規に別のレコードを作成することです。

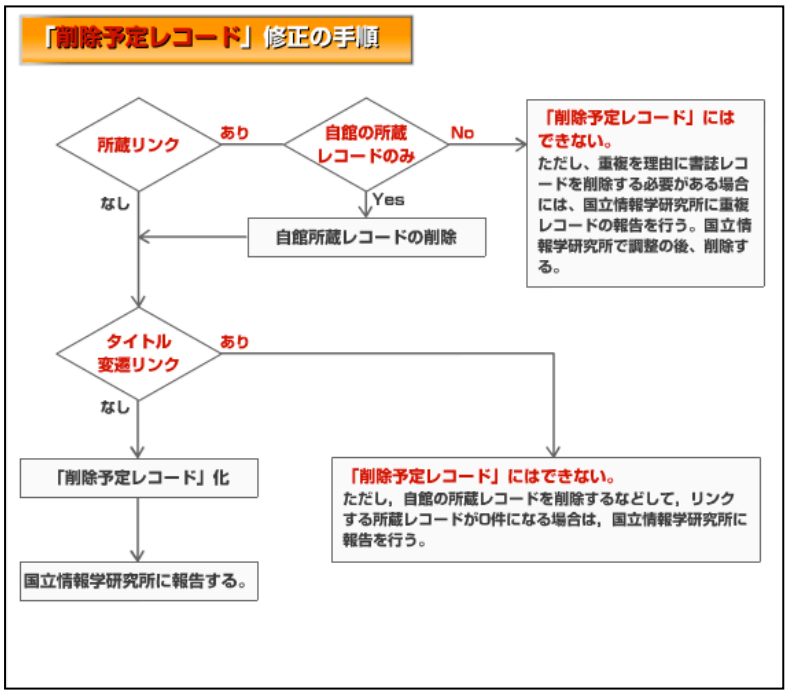
書誌修正とは、既存のレコードに何らかの変更を行い、上書きすることです。

例えば、版違いの書誌レコードを登録したい場合は、流用入力の操作になります。

初号や、より初号に近い号があった場合は、書誌修正の操作になります。

この違いを間違えると、書誌レコードを別の内容に書き換えたり、重複書誌を作成することになりますので、充分に気を付けてください。

4 項　書誌レコードの削除



書誌レコードは共有レコードなので、削除することはできません。もし、重複レコードを作成してしまった場合などは、次のような手順で「削除予定レコード」にします。
まず、リンクしている所蔵レコードがないことを確認します。他の参加館の所蔵レコードがリンクしている場合は、削除予定レコードに修正することはできません。
次にタイトル変遷リンクもないことを確認してください。もし、リンクがあれば削除予定レコードに修正せず、国立情報学研究所に報告を行います。
また、雑誌については書誌レコードを削除予定レコードに修正したことについても、国立情報学研究所に報告を行います。

「削除予定レコード」化＝定型の記述内容に修正すること

フィールド	データ	備考
TTLL	und	言語コード
TXTL	und	言語コード
TRD(TR)	削除予定レコード	洋雑誌の場合でも漢字で記入する
PUBP(PUB)	削除	洋雑誌の場合でも漢字で記入する
その他のフィールド		データは一切記録しない

典拠レコードの「削除予定レコード」化 →『目録システム利用マニュアル』参照

「削除予定レコード」とは、そのレコードを、表のような定型の記述内容に修正することです。
TTLL と TXTL は「und」、TR には「削除予定レコード」、PUB には「削除」と記入します。
この必須の 4 項目以外のフィールドには、一切記録しません。
洋雑誌の場合でも同様です。
典拠レコードも共有レコードですので、レコードを削除したい場合には、同様の修正が必要です。
「削除予定レコード」化については、『目録システム利用マニュアル』を参照してください。

5 項　報告

23.0C ただし、GMD、SMD、YEARフィールド以外のコードフィールド、PRICEフィールド、誤字・脱字等の明らかな誤りの修正については、報告する必要はない。

6.0 F （報告）

新規レコードを作成した場合や、書誌レコードを修正した場合（→23.0）、または、タイトル変遷関係について新しい事実を発見した場合は、国立情報学研究所に報告する。

報告時に送付するものは以下のとおりである。

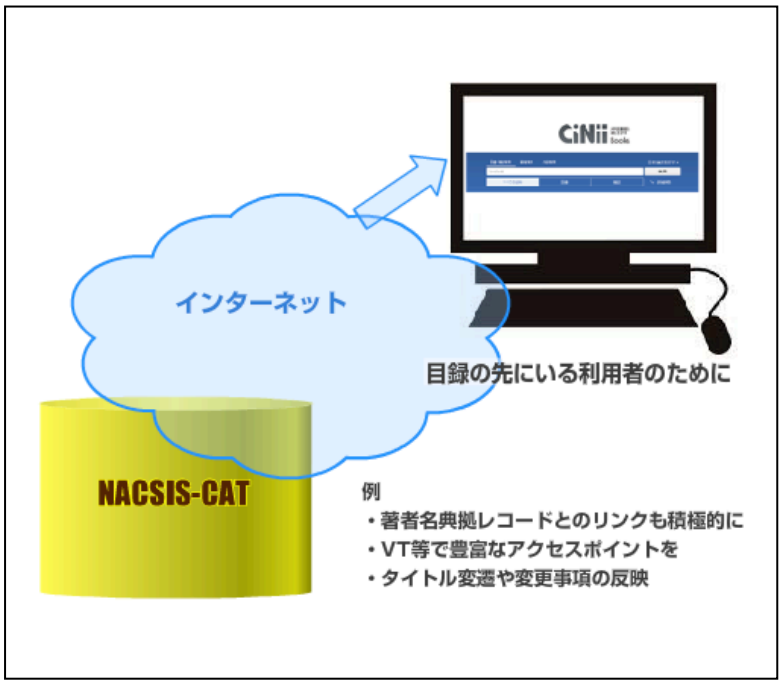
（1）報告内容についての説明（新規作成・修正・変遷報告の別、および対象書誌ID、報告者の連絡先等）
変遷報告の場合は、変遷注記用データシート

（2）書誌レコードの詳細表示画面の画面コピー等
新規作成：作成した書誌レコードの画面
書誌修正：修正前の画面と、修正後の画面の両方
タイトル変遷：関連する書誌レコードの画面

（3）報告の根拠となった**情報源**
新規作成：記述の根拠となった号の規定の情報源箇所のコピー等
タイトル変遷：タイトル変遷と考える根拠となった情報源箇所のコピー等
書誌修正：修正する根拠となった巻号・情報源箇所のコピー等
変遷前誌・後誌の作成や修正を伴う場合には併せてそのコピー等

最後に「報告」について復習しましょう。
雑誌の書誌レコードを作成、また、修正した場合は、情報源を添えて国立情報学研究所に報告します。
『コーディングマニュアル』6.0 および 7.0 通則 F には、報告についてこのように規定されています。忘れずに国立情報学研究所に報告をしてください。
また、軽微な変化かどうか迷う場合などは、情報源のコピーを添えて国立情報学研究所にお問合せください。

おわりに



皆さんが作成する書誌レコード（目録情報）は、インターネットを通して、広く世界中に公開されています。

知識があれば、間違いのない書誌レコードを作成することが可能ですが、それだけではなく、目録の先にいる利用者のための記述への意識も重要です。

例えば、積極的なリンク形成や、適切な VT、主題等の追加などです。

レコードの作成の際には、正確なだけではなく豊かな内容になるよう心掛けてください。

以上で、「雑誌書誌登録」の学習は、すべて終了です。